最上の子どもたちのために
未来へ紡ぐ

◆ 最上教育事務所指導課通信
◆ 令和８年１１月６日
◆ 最上教育事務所指導課
◆ 第　６　号

学習指導力向上研修会　　１０月１日（木）

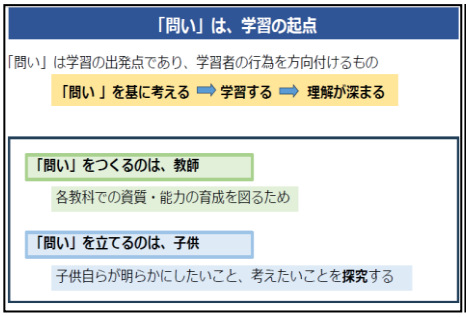
最上管内の各小・中学校、義務教育学校、各市町村教育委員会から約 40 名の方々に参加いただきました。前半は、最上教育事務所から令和8年度全国学力・学習状況調査の結果分析と授業改善について説明を行い、「授業改善へのアクション（R8）」を確認しました。各校においては、校内研究の視点と関連付けながら、学校全体で取り組む授業改善の一手について考える機会となりました。後半は、横浜国立大学名誉教授の髙木展郎先生を講師にお迎えし、「今、求められる授業づくり」をテーマに講義と演習を行っていただきました。参加者からは、「明日からの授業に生かしたい」「校内研究の方向性を改めて考えるきっかけとなった」などの声が聞かれました。

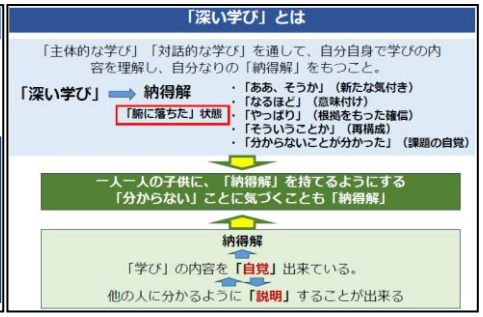
講義より

・教師が「何を教えたか」ではなく、**子どもが「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を大切にする。**
・**主体性は、初めから備わっているものではなく、学びの過程を通して育まれる。**そのため、子どもが自分で考え、判断し、選択しながら学びを進められるよう、授業の進め方や支援の在り方を改善し、**「子どもが主体」となる授業をつくっていくことが求められる。**
・**教育目標や授業づくり、学習評価について共通理解を図る**ことが重要で、共通の土台があるからこそ、教師一人一人の専門性や個性を十分に発揮できる。









楽しい体育授業づくり研修会　　１０月１５日（木）

最上・庄内管内の小・中学校等教員を対象に、標記研修会を開催しました。講師に瀧澤孝次氏（アクティブ・チャイルド・プログラム=ACP 講習会受講修了者）を迎え、ACP の運動遊びや考え方を取り入れた講義と実技演習を通して、子どもたちが運動に親しみ、その楽しさを実感できる体育授業の在り方について学びました。

参加者は、運動遊びを体験しながら安全面への配慮や危険予測について理解を深めるとともに、授業における具体的な支援の在り方をイメージすることができました。また、運動に親しむことや仲間と関わりながら活動することの大切さを再認識し、「楽しい体育」の実現に向けた授業づくりへの意欲を高める機会となりました。





「できた！楽しい！」を
心と身体で体感中♪



～受講者の感想～
授業に生かせる様々な動きを体験することができました。「子どもだったら？」という留意点についても考えられたことで、授業で実践するイメージをもつことができました。

いじめ・不登校未然防止協議会　９月８日（火）

今年度第2回となる今回は、講師に利根川明子氏（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター主任研究官）をオンラインでお招きし、講義と参加者によるグループ協議を行いました。各小・中学校等の取組を、国立教育政策研究所のプロジェクト研究を手がかりに捉え直すことで、理論と実践を関連付けながら理解を深めることができました。また、小・中・行政の混合グループで協議を行ったことで、それぞれの知見や取組、強みを共有し合い、自校の実践を見直したり、今後の取組への示唆を得たりすることができました。






～参加された方々の声～

- 思春期の発達特性や、小学校段階からの支援の重要性について理解が深まりました。これまで無意識に行っていた支援に理論的な根拠を見いだすことができ、自信につながりました。
- 今後も、児童生徒とともに考える場を大切にしながら、学校全体で「頼れる大人」として児童生徒とつながり、児童生徒のセルフコントロールを支援していきたいと思います。

５年経験者研修兼特別活動・学級活動特別講座　９月１７日（木）

毎年、教育事務所における教職５年経験者研修は、「望ましい人間関係づくり」を視点に「特別活動」の実践的指導力の向上を図る研修を行っています。午前は、明倫学園（後期） 越後 七々美 教諭より学級活動（１）の授業を提供いただき、研究協議を行いました。午後は、國學院大学教授の杉田洋氏より、「学級経営、生徒指導、特別支援教育の要として役割を活用する」と題してご講義いただきました。杉田先生の講義は「特別講座」として、最上管内の希望する先生方にもご参加いただきました。

越後　七々美　教諭（明倫学園後期）
学級生活の充実・向上
―合唱への取り組みを通して―






講義より

・意見の違いを話し合いで解決するのが学級会である。
・**特別活動は教科の力を生かす場所**である。教師主体から子ども主体へ。浅い学びから深い学びへ。多数決から納得解へ。
・**学校は子どものもの**。特別活動を通して教育観を変えていく必要がある。子どもの意見を反映する学校でありたい。

～研修された先生方の声～

- 学活の授業について、とても具体的なイメージを持てた貴重な時間でした。一人ひとりが解決すべき問題なのか、クラス全体で話し合うべき問題なのかを見極め、より意味のある授業や関わりをしていきたいです。
- 今までの学活、特活に対する認識が大きく変わった研修会でした。生徒達のみで合意形成をすることの意義、それを促すための土台作りの重要性を理解することができました。